

会議結果報告書

平成 30 年 12 月 19 日

1. 会議名 平成 30 年度 第 8 回 印西市環境推進市民会議

2. 日 時 平成 30 年 12 月 14 日(金) 9:30～11:30

3. 場 所 印西市役所 25 会議室

4. 出席者 委員：岩井、小山、白川、根本、橋本、平林、福井、松崎

※欠席／上田

事務局：黒田、海老原（環境保全課 保全係）

増山（エヌエス環境）

5. 配布資料

- ・平成 30 年度 第 8 回環境推進市民会議 会議次第
- ・平成 30 年度 第 8 回環境推進市民会議 席次表
- ・印西市環境白書 概要版（案）
- ・印西市環境推進市民会議からの意見まとめ
- ・環境推進市民会議委員からの意見・提案（案）

6. 内 容

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

1) 地域交流館まつりの報告について

(会 長) 地域交流館まつりに参加した感想や反省点を伺いたい。

(委 員) 会場の生演奏の音が大きく、説明している声がよく聞こえないと言われた。また、もう少しスペースが広いところであれば、掲示物をたくさん見てもらえる。

ハザードマップに興味を持ってくれた。また、人が混んだときは、対応する委員の数が少ないように感じた。

今回から景品の配布数を一家族につき一つとしたが、ちょうど良かった。今まではあげすぎていた。

ハザードマップは持っていますが、見ていない人が多かった。また、マップの見

方がわからないという声もあった。貯水池や雨水マスがどんな役割を果たしているのかを知ってもらえた。また、道路側溝が家の近くにある場合、マスの中を掃除するようお願いした。ハザードマップは配るだけでなく、その見方について説明する必要があると感じた。

まつりの感想を問うアンケートの結果の中で、環境にまつわる内容についてお伝えしたい。カミツキガメ、資源の再利用、生き物をむやみに放してはいけない、また外来生物のことがわかった。環境、印西の自然のことがわかった。CO₂のことがわかった。リサイクルについて勉強した。エコについて知ることができたなど。今回、市民会議のブースは評価が高かった。

(会 長) 来年はこの経験を生かし、さらに良いものにしていきたいと思う。

参加者は過去最高の約 3,000 人弱であった。

(事務局) 市民会議で配布した啓発物資のエコバックは約 200 袋だった。

(会 長) どこから来たのかを問うアンケートを確認したが、8 割はニュータウン中央地区の人であった。木下や小林地区などはわずか 30 人ほどだった。これはバスによる交通の便が悪いからではないかと考えている。ふれあいバスの増便を検討する必要がある。

(委 員) 地域交流館まつりの案内には「公共交通機関をご利用ください」と書いてあるが、バスが走っていないければ行こうにも行けない。

(会 長) ふれあいバスの増便や、臨時バスを出すなどの対応を検討してもらいたい。

2) 手賀沼流域協働調査の報告について

(委 員) ナガエツルノゲイトウが 4 箇所のうち 3 箇所と、ほとんどのポイントにあった。特に上流の古新田川に入ってきているのが気になった。

湧水の亜硝酸の数値が高いところがあった。

3) 環境白書(案)について

(委 員) 16 ページの農地の状況について、遊休農地面積の減少が図られているとある。

遊休農地が減るといのは農地自体が減ることにつながっているが、それが良いことと言えるのか。

(事務局) 一般的には遊休農地が減ることは良いこととされているが、内訳を見ると農地そのものが転用等で減っているのでは、良い方向に向かっているとは言えない。

(委 員) 「図られている」という言い回しでは、良い方向に向かうように目的を持ってやっているという意味になる。そうでないのであれば、この言い回しは適さない。

(事務局) 修正を検討する。

(委 員) 減っているというほどの数値ではない。横ばい状態である。遊休農地ではなく農地自体が減っていることを示した方がわかりやすい。

(事務局) 担当課と相談して記載内容を検討する。

(会 長) 現在の印西市環境基本計画は、平成 25 年度から平成 33 年度までを計画期間としており、この環境白書はこの基本計画をベースに評価している。この基本計画は必要に応じて途中で見直しするとはっきり書いてあるが、いまだに改訂されていない。2015 年に SDGs「2030 アジェンダ」というのが国連で採決され、同年 12 月には温度上昇を 2℃未満に抑えるため「パリ協定」が採決され、どちらも環境について世界に大きなインパクトを与えた。我が国ではどうなっているかというと、2018 年 4 月に SDGs とパリ協定を反映させた第五次環境基本計画を作成し、千葉県は 2016 年 9 月に 2030 年までを計画期間とする「千葉県地球温暖化対策実行計画」を改訂した。

そのような大きな動きのある中で、印西市の環境白書は時代遅れの基本計画をフォローするものになっている。まずは、印西市も環境基本計画を早急に改訂し、それをベースとした環境白書を我々が検討するようにしたい。

(事務局) 新しい基本計画の策定を再来年度から着手する予定である。

(委 員) 対象期間が 8 年というのは長い。世の中の変化は速い。それに対して行政の動きが追従できていない。

市内エコプランのページ数が多いので縮小するべき。市民は市内エコプランの結果には興味がない。コスト削減にもつながる。また、ページ数は同等とし、写真や絵を増やすことで、印西市の魅力を伝えても良い。

(事務局) もともと市内エコプランにはこれほどのボリュームはなかったが、前任者が会議の意見を汲んで増やしたと聞いている。

(委 員) 総評、今後の方向性についての文章が少ない。施策自体が消極的な印象もある。もっと積極的に取り組んでいる姿勢を見せてほしい。

(会 長) 次に、各委員から提出された意見について、事務局の説明を求めます。

(事務局) 委員の皆様からいただいた意見について、類似した意見を集約し 1 ページにまとめた。基本項目ごとに 3~4 つの意見にまとめている。この内容をベースに追加したいことや、他の意見があれば伺いたい。

(委 員) 世の中にはプラスチック製品が溢れている。一回料理をするだけで、プラスチックごみが数袋出る。そうやって集めたごみは中国へ行き、そのまま海に捨てられる。そのような循環ではますます対処できなくなる。日本国内で、きちんと再資源化されるような循環を作っていかなければいけない。環境白書でこの問題を取り上げてもらいたい。

(事務局) 来年度の特集記事として検討させていただきたい。

(会 長) 現在、関心が高まっている問題なので、今回は市民会議の意見として、基本項目 3 に記載したい。

(委員) マイエコバッグをトレンドアイテムとして取り上げるなど、基本項目ごとにトレンドをわかりやすく見せるような工夫が必要である。

防犯カメラ設置の推進とあるが、防犯というと犯罪防止の面が強い。環境白書で取り上げるなら、不法投棄の抑制を目的とした監視カメラという表現が適しているので、基本目標 3 へ記載するべき。

(会長) 基本目標 3 と 4 の両方に、ふれあいバスのことが書かれているが、基本目標 3 に記載することとする。

基本目標 4 で市の温室効果ガスの削減目標を作成すべきと提案したが、基本計画の見直しと同様に策定に向けて努力してほしい。

(事務局) 計画の策定が法律で義務付けられていないことで、検討が遅れている。

(委員) 基本目標 4 に、レジ袋の完全有料化を促進するとあるが、有料化が目標ではなく、市民全員がエコバッグを携帯し、レジ袋がいない社会にすることが最終目標だと思う。

(会長) レジ袋をできるだけもらわないように努力することが大切である。これらの趣旨を踏まえて事務局で文章の検討をお願いしたい。

(委員) 基本目標 1 で提案したが、印旛沼や手賀沼のことがいつもおざなりにされている。印西市にある大切な水資源を、どのように活用するのか、また、どう保全していくのかということを計画として打ち出してほしい。

ゴミの資源化率が減少傾向にあるのは、市民の多くが直接、民間業者に資源ゴミを出しており、その量を市で把握できていないことに原因がある。間違った解釈をしないように、注釈が必要である。

(事務局) 白書には注釈を入れた。概要版にも追記することとする。

(委員) 白書の 23 ページにある「騒音・振動の防止」について、測定が新たに必要になった場所が増えていると思う。振動がひどく、夜眠れないという地区もある。振動被害が大きいと見込まれるところは、市がすぐにでも測定して状況を把握し、改善していく必要がある。

(事務局) 騒音・振動については、毎年地点を変えて測定している。苦情の多い場所について、予算内で優先順位をつけ測定を行っている。そのデータをもとに、改善の検討がなされている。

(会長) 環境白書についての議論はここまでとする。

(事務局) 市民会議委員からの意見・提案については、会長と調整し、作成していく。皆様から提出いただいたすべての意見を関連部署に通知し、市役所内で合意形成を図って参ります。また、これから庁内で最終校正の実施を予定しており、引き続き内容変更の可能性があることを了解されたい。白書の発行については校正や決裁が順調に進捗した場合は 1 月末の発行を予定している。

(会 長) 次回は2月15日(金)の開催を予定している。本日はこれにて閉会する。

平成30年度 第8回 印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成31年2月15日

委 員 白川 卓生

委 員 小山 尚子